

## 1 指導概要

教 科		科 目		
英語		英語入門 A	単位数：2単位	
指導目標：英語の基本的な文法である主語 (S) + 動詞 (V) を理解することで、日本語との文法的な違いを知り、英語を組み立てる技能を養い、英語習得の一步を踏み出す。				
1. 英文法の基礎を繰り返し学習することで、自分の意志や思考を英語で伝える能力を養う。基本の文法を基に様々な表現法を身に付け、コミュニケーションを図ることができるようになる。				
2. 基礎基本の文法で繰り返し英文を作る練習をする中で、自分の思いを伝えようと努力する姿が見られる。また、表現を広げる上で必要な単語や熟語の修得にも励むことができる。積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとし、異文化の人々との交流に努めることができる。				
メディア視聴	あり	60%	教科書	東京書籍
スクーリング	1 単位時間×8回	合格時間数 8 時間以上	学習図書	自校作成の教材資料を使用
レポート	全 6 回	合格枚数 6 枚	副教材	NHK 高校講座
回	高校通信教育講座 (単元・学習内容)	レポート (締切期日)	スクーリング (日程と内容)	
1	be 動詞・一般動詞の現在形と過去形	第 1 回 (5/30)	第 1 回	英語の基本は、主語 (S) + 動詞 (V) で成り立つことを知らせる。更に be 動詞は、その後ろに名詞か形容詞を置くことを知り、S が (名・形) である、と表現できることを理解する。
			第 2 回	一般動詞もその後ろに名詞を置くことを知り、S が (名) を do する、という文章を作れること知り、自分の意見を一般動詞を用いて表現する。
2	進行形 助動詞 can/must/may/should 未来を表す文 will/be going to	第 2 回 (6/30)	第 3 回	*be 動詞+doing で、今 do しているという表現ができることを知り、未来の表現形式と比較しつつ、自分の意見を表現する。 *助動詞は動詞の前におき動詞の意味を付け加えることを理解し、自分の心情を、助動詞を用いて表現しようとする。
3	疑問詞① who/whose/what/which 疑問詞② when/where/why/how 不定詞① to+動詞の原形 不定詞② いろいろな不定詞の用法	第 3 回 (7/30)	第 4 回	*疑問視を文頭に出すことで、話者が聞きたい内容がわかることを、実例を用いて理解する。 *疑問視の意味や種類を知ること、会話に広がりができることを知る。
			第 5 回	*to+原形動詞で、名詞・副詞・形容詞の働きを理解する。 *原形不定詞という to のつかない不定詞もあることを理解し、help 等の語句を用いて表現しようとする。

4	動名詞 比較 There is(are)~構文	第4回 (9/30)	第 6 回	*doing は do することという、名詞の意味になり、主語・補語・目的語になれることを理解する。 *比較級・最上級のように原形を基に様々なものを比較できることを理解し、活用しようと試みる。 *「There is ~」の表現方法を理解する。
5	受け身 現在完了形① 肯定文 現在完了形② 疑問文と否定文	第5回 (10/30)	第 7 回	*過去分詞が様々な表現に使われていることを理解した上で、受け身と完了形で表現してみる。 *be 動詞+過去分詞で受け身、have+過去分詞で完了形を表現することができることを理解し、自分の意見を表現する。
6	分詞・現在分詞・過去分詞 関係代名詞 who/which that 仮定法過去 /前置詞/接続詞	第6回 最終提出： (11/30) 提出予備日： (1/15)	第 8 回	*現在分詞・過去分詞それぞれが持つ意味を理解し、形容詞として名詞を修飾することを理解する。 *疑問詞と関係代名詞の違いを知り、節と節を関係づける関係詞の役割を理解する。 *ありえないことを話すときの表現を学び、「もしも~ならば・・・」の文を表現しようとする。

## 2 評価の観点

知識・技能	目的や場面、状況、相手の反応などを踏まえた上で、適切な語彙や表現などを選択して活用するために必要な技能を理解する。
思考・判断・表現	精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によってアウトプットし、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に表現しあう。
主体的に学習に取り組む態度	意欲的にレポート作成に取り組み、スクーリングに出席し身近な事象をもとに、英語を用いて伝え合う探究活動をしようとしている。

## 3 評価の方法

スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価する。
--

## 4 担当者からのメッセージ

英語入門Aでは、スクーリングへの出席（取り組む姿勢）、レポートの提出（レポートの内容）、試験結果を総合的に判断し、評価します。基本的なことから応用まですべての英語の基本となる文法事項を確認し、活用する特訓を行います。教科書を読み、各回の範囲を予習し、レポートをできるだけ完成させた上で面接指導にのぞむことを推奨します。また、NHK 高校講座の視聴も基本的な文法理解に役立ちますので、活用してください。
--